



ふじあざみ



富士吉田市

450年続く富士山の神事

みちびら

登山道を開く「お導開き」

～6月30日 富士吉田市～

毎年7月1日の富士山の山開きを前に、富士吉田市では6月30日、開山前夜祭が行われます。今年も北口本宮富士浅間神社(富士吉田市上吉田)の吉田口登山道入り口では、約450年続いているとされる登山道を開く神事「お導開き(おみちびらき)」が盛大に行われました。

そびえたつ富士山を背に諏訪の森に鎮座する北口本宮富士浅間神社。

現在の本殿は1615年(元和元年)に再建、1688年(貞享5年)に社殿を造修、本社殿は桃山時代の高荘な建造物として国の重要文化財に指定されています。

この神社から富士山頂へと続く一本の道は、吉田口登山道として古来より多くの人々に親しまれてきました。登山道入口の鳥居に張られた注連縄(しめなわ)を切り、山開きをする神事がお導開きです。



北口本宮富士浅間神社

岩戸を押し広げたという力の強い神様「手力男之命(たちからおのみこと)」に扮した男性が同登山道入り口の鳥居に張られたしめ縄を切り落しました。

前夜祭は、30日午後1時半、富士山信仰を再現した「富士講パレード」で幕を明けます。市内の幼稚園児や婦人会の女性ら約120人が行衣姿に金剛杖を持ち、「六根清浄(ろっこんしょうじょう)」などと唱えながら金鳥居公園から同神社を歩きます。

同神社でおはらいを受け、夏山の安全を祈願した後、「お導開き」が行われます。天岩戸(あまのいわと)にこもった天照大神(あまてらすおおみかみ)が外から聞こえる笑い声につられて岩戸を少し開けた際、手で

1日は同神社や富士スバルライン五合目の小御岳神社で開山式が行われ、8月26日に行われる北口本宮富士浅間神社と、境内社諏訪神社の秋祭りであると同時にお山じまいの祭りでもある「吉田の火祭り」までの富士山の短い夏が始まりました。

山開きの神事は、他にも富士宮市、河口湖町をはじめとする登山道入口各所や周辺の多くの浅間神社でも行われ、登山の安全が祈願されています。

(写真提供:富士吉田市役所 富士山課)

富士山の湧水のメカニズムを探る その3

富士山の基礎知識

前回は湧水が湧き出す時や、溶岩層中の地下水の状況を調べてみました。では、富士山に降った雨や雪はどのくらいの時間をかけて湧き出すのでしょうか？

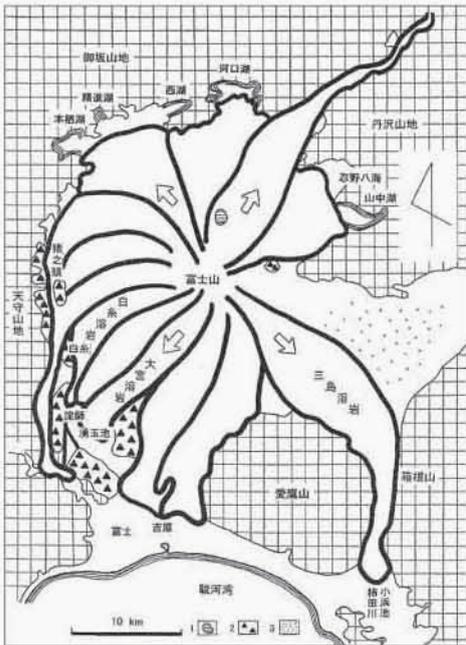


図1: 富士山の約1万年前の大規模玄武岩溶流の分布とその末端にある山麓の主な湧水

■湧水は何年位かかって湧き出すのか？

富士山の湧水は山体の色々なところで知られていますが、特に山麓の周囲には主な湧水があって、それらはいずれも約1万年前(11,000~8,000年前)の大規模な玄武岩溶流の末端に位置していることを見てきました(図1)。そして、富士山麓の湧水は、山頂の雪が融け始めるとすぐに増水しますし、中腹以上に大雨があるとすぐに増水することもわかってきました。これは富士山麓の湧水が地下を流れる川のような不圧(自由)地下水ではなく、上から地下にしみ込んだ水の圧力がすぐ末端に伝わるような被圧地下水のためと考えられますが、では、水の粒子そのものは地下にしみこんでからどれくらいかかって湧き出すのでしょうか？

そのようなことを調べるのに水素の放射性同位体³Hトリチウムの濃度を使うことができます。水素には¹H軽水素、²Hまたは^D重水素、³H三重水素あるいはトリチウムと呼ばれる3種類の同位体が知られますが、トリチウムだけは放射性同位体で大気中では互いに混ざり合ってほぼ同じ濃度組成ですが、一旦地下に浸透して地下水になると外界から隔離され、トリチウムは半減期約12年の割合で崩壊しその濃度TUは次第に減少していくので、それを使って地下水の年齢を出そうとするものです。ただ、1950年代は通常の降水の³H濃度は10TUとされていましたが、その後、原水爆実験により1963-1964年には1000TUまで急に増加し、やがて次第に

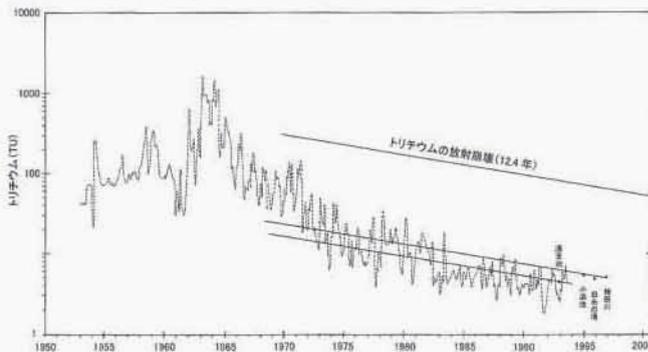


図2: 大気における水素同位体トリチウムの経年変化と半減期(筑波大学, 1994年から作成)

低下して1995年頃の降雨では5TU前後まで下がるようになってきました(図2)。そこで、湧玉池、白糸ノ滝、小浜池、柿田川の湧水から得られたそれぞれのトリチウム濃度TU(湧玉池 4.5 ± 0.4 [1993年測定]、白糸ノ滝 4.7 ± 0.4 [1996]、小浜池 5.4 ± 0.4 [1995]、柿田川 15.0 ± 0.4 [1997])を、上記の降水のトリチウム濃度の経年変化のグラフに入れてトリチウムの放射崩壊をあらわした線と平行に当てはめてみると、変化が大きいのではっきりはしませんが、湧玉池の湧水はおよそ0~6および10~20年前、小浜池、白糸ノ滝、柿田川の湧水はいずれもおよそ13~23年前の年数の範囲に当てはまり、このようなことから平均すると15年前後の年数を経た水ではないかと私は考えています。湧水というのは実際にも、昨日の雨もはいりま

すし、近くの浅い地下水もはいり込みますので、年数を出すにはなかなか難しい点も含まれています。

■湧水と通常河川の流れ方のちがい

では、このように何年もかかって湧き出る湧水にはどんな特徴があるのでしょうか。今度は別の面から調べてみましょう。



写真: 湧玉池

湧玉池の湧水はそのまま流れて神田川となり、やがて潤井川に合流します。この神田川の流量は通常は1日約20万 m^3 ですが、平成1~13年間の各年の平均日流量と白糸の年降水量を画いたのが図3(上)です。多雨の年は流量も多く、少雨の年は流量も減少するのは当然ですが、これを普通の河川の1つ、興津川と比較して見ました(図3(下))。興津川は田代峠付近の標高1,550mを源流とし駿河湾に流入する平均日流量約67万 m^3 と神田川の3倍余の流量のある川で、旧清水市民24万人の水道用水ともなっているきれいな川です。河口近くの清水の降水量は白糸より若干少ない程度で同じように変化していますが、興津川の平均日流量の変化は30万 m^3 から125万 m^3 まで変化しています。興津川にはダムもありませんし、ごく普通の川といっ

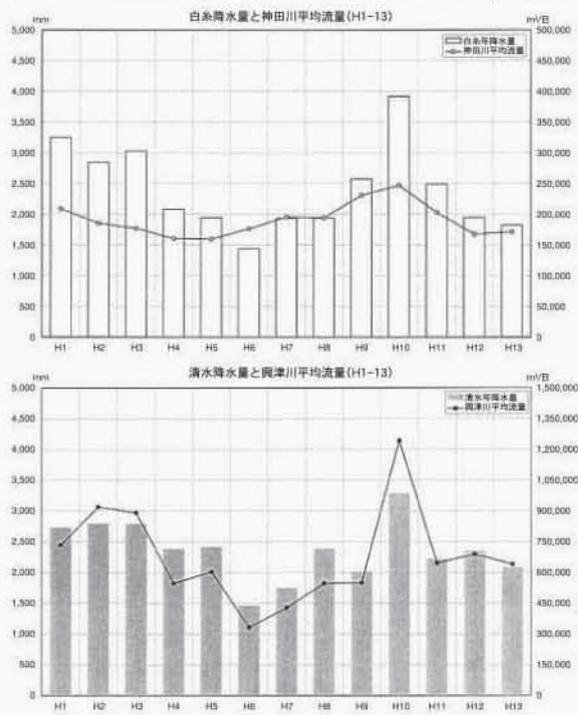


図3: 平成1~13年間の神田川と興津川の年平均日流量の変化 白糸と清水の年降水量の変化もあわせて示す

よいでしょう。ところで、神田川の平均日流量は興津川のそれと比較して何と滑らかな変化なのでしょう。つまり、多雨の年になっても少雨の年を迎えても若干ふえたりへったりするだけで、いつも同じような水の流れが見られるのです。これは何年間も地下水圧が平均して加わるため、神田川に見られる湧玉池湧水の流れがまさにそのような被圧地下水の特徴を表していると考えられます。(土 隆

富士山に暮らす

富士五湖は山中湖を除いて流出口を持たない閉塞湖であるため、古くから湖水の氾濫に悩まされてきました。人々はこれらの問題を解決するために、様々な努力をし続け、富士五湖と共存、さらには恩恵に変えて現在に至っています。

人々に恩恵を与える富士五湖の放水路

■江戸時代から続く湖水の氾濫対策

富士五湖は本栖湖・精進湖・西湖・河口湖・山中湖に分けられます。そのうち山中湖を除いては流出口を持たない閉塞湖であるため、古くから湖水の氾濫に悩まされてきました。

河口湖では江戸時代に150年を費やして湖水を排水する掘り抜き工事が行われました。現在では河口湖にも、本栖湖にも放水路がありますが、それらは発電にも利用されています。

西湖では1992年に湖面が異常に上昇した

ことがあります。8月20日から9月14日にかけてほぼ毎週のように台風が上陸または接近し、この間だけで年平均降水量のおよそ3分の2を降らせました。湖面は台風以後にじわじわと上昇を続け、最高水位は平常水位を超えることじつに8.72mで、湖畔の道路は道路標識を頭だけ残して水没し、周りの民家や民宿にも被害がおよびました。このような湖面水位の上昇は数多く記録されています。

山中湖以外の湖は、大雨による流入・地下水

の湧出によって水位が上がりやすいのです。これらの水害を未然に防ぐための事業は様々ありますが、現在フィッシングのポイントとして釣り人たちに人気の、西湖と河口湖を結ぶ「西湖放水路」もそのひとつです。本栖湖の湖水も発電のため地下水路に導かれ常葉川から富士川に流出しています。河口湖の増水被害を食い止めるため県が1993年に建設した嘯(うそぶき)治水トンネルの最大放水能力は毎秒22.21t。全長は河口湖の東岸の取水口から富士吉田市との境のうそぶき山の地下をトンネルで抜ける約1.5kのトンネルです。これら様々な事業によって、富士五湖は近年、増水による大きな被害には見舞われていません。

富士山に寄せる想い

自分の感じたままの富士山を描き続ける

画面いっぱいの大きな富士山に、荒々しくも雄大な印象を与える大沢崩れの姿。その上空には繊細な飛行機雲が描かれ、それらが絶妙なバランスで見る者の心をつくこの作品は、「第7回 富士山への手紙・絵コンクール」絵部門の中学生の部で、見事最優秀賞に輝いた作品です。今回は、この作品の作者、富士宮市立西富士中学校3年生(受賞当時2年生)の中島美早香さんに「富士山への手紙・絵コンクール」を通じた、富士山に対する想いを語ってもらいました。



■姉弟で描き続けた富士山

「特別な絵の勉強したことはないんですが、日頃から絵を描くのは大好きで、小さい頃から友達や家族などをよく描いていました。」と語る美早香さん。夏休みの宿題などでも、よく富士山を描いていたといいます。第1回目からずっとコンクールに参加してきた美早香さんですが、先に入賞したのは、なんと弟さんの岳将(たけのり)さんだったそうです。記念すべき第1回目のコンクールで、

当時小学1年生だった岳将さんが、見事佳作に入賞したのでした。「あのときは弟が受賞して嬉しい気持ちもありましたが、反面やしい気持ちもあったんです。(笑)」と正直な気持ちを笑顔で語る美早香さん。「ひょっとすると、あの時の気持ちが、今回の受賞につながったのかもしれないね。(笑)」と付け加えてくれました。

■大沢崩れに対する複雑な想い

コンクールに応募された今までの美早香さんの作品には、一貫して大沢崩れが描かれています。美早香さんが通う西富士中学校は富士山の大沢崩れ直下に位置していますが、美早香さんの場合、理由はそれだけではないようです。「きれいな富士山に対して、荒々しく迫力のある大沢崩れの対比が好きなんです。でも、大沢崩れは毎年崩れていて、富士山にとってはないほうがいいということも知っています。それに、大沢崩れのない本当に美しい富士山も見たいですね。」と、鋭い感性をのぞかせる発言も。「小学校のとき、私は参加できませんでした。代表の生徒がふじあざみの植樹をしたことがあります。植樹によって崩れを少しでも食い止めるられるのなら、たくさんの中学校で、もっと積極的にやったほうがいいと思います。それに、気のせいか、富士山のまわりの緑が、段々少なくなっているように感じるんです。」と、富士山の環境問題に進言するコメントもいただきました。



■受賞は嬉しさよりも驚き

「富士山を描くときはイメージで捕らえる場合が多いです。今回は緑の部分に網を使ったブラシ

の効果をためてみようと思いました。思った以上にいい効果が出て、自分でも今までの作品の中で一番気に入っていたので、それも評価の対象になったのかもしれないね。」受賞の知らせを受けたときは、嬉しさよりも驚きの気持ちのほうが大きかったという美早香さんですが、「弟に対して姉として負けたくないという気持ちもあったので、その嬉しさもありましたね。(笑)」と、本音もちょっぴり出てしまいました。負けず嫌いの性格は、あらゆる方面で発揮され、所属するバスケットボール部ではレギュラーを目指し頑張っています。バスケットボール部は、富士宮市民スポーツ祭で3位に入賞しました。

■これからも自分の感性のままに描く

「審査委員長の村松先生は、有名な作家だということを知っていたので、とっても緊張しました。でも、言葉をかけていただいた、とっても嬉しかったです。」と語る美早香さん。「富士山も大沢崩れも見る時や場所、自分の気持ちによっても違ったイメージに見えます。私は人穴から見る富士山が大好きなんです。大沢崩れが真正面に見えて、とても迫力があり、スゴイです。」今回8回目を迎えるコンクールにも出品するという美早香さん。もう構想はできあがっているそうですが、詳しいことはヒミツとのこと。今回応募される方々に、なにかアドバイスのようなことはないか聞いたところ「アドバイスなんてそんなおかげさなものはありませんが、自分の見た、思った、感じたままの富士山を、そのまま描けばいいと思います。」と、素晴らしいメッセージをいただきました。3年生の美早香さんにとって、中学校生活も残り少なくなってきましたが、「卒業後も高校生・成人の部でずっと応募し続けたいと思っています。」とコンクールに対する想いと意気込みを感じさせる言葉で締めくくってくれました。



■プロフィール 中島 美早香(なかしま みさか)さん

1988年5月18日生まれ。富士宮市立西富士中学校3年生。バスケットボール部に所属。第1回富士山への手紙・絵コンクールから現在まで、同コンクールに休むことなく出品を続け、第7回のコンクールにて中学生部門最優秀賞受賞。

お知らせ

国立歴史民俗博物館・開館20周年記念展示の紹介

「富士山宝永噴火と土砂災害」を展示

国立歴史民俗博物館では、開館20周年記念展示として2003年7月8日(火)～9月21日(日)に、「ドキュメント災害史 1703・2003。―地震・噴火・津波、そして復興―」を企画展示します。国土交通省富士砂防事務所は、既存の収集・解析された富士山の「宝永噴火」と噴火後の降灰地域における土砂災害について展示しています。

- 主 催：国立歴史民俗博物館 (<http://www.rekihaku.ac.jp>)
- 後 援：内閣府、文化庁、国土交通省
- 展示期間：2003年7月8日(火)～9月21日(日)
- 展示会場：国立歴史民俗博物館 エントランスホール、および企画展示室1・2・3室
- 入 場 料：一般420円(団体350円)、高校・大学生250円(団体200円)、小学・中学生110円(団体90円)(常設展と共通)
- 住 所：〒285-8502 千葉県佐倉市内町117 Tel:043-486-0123(代)

富士山総合学習支援結果報告(4月～6月) ●以下の日程と内容で行いました。

実施日	参加人数	学 習 内 容
4月24日 富士宮市立第4中学校	199人	砂防事業に関する学習と扇状地見学
4月30日 富士宮市立上井出小学校教員	12人	扇状地見学
5月14日 富士宮市立第1中学校	200人	扇状地見学
6月20日 富士根南中学校2年部	57人	砂防事業に関する学習
6月20日 富士宮第2中学校	35人	砂防事業に関する学習
6月20日 富士宮市立黒田小学校4年	126人	扇状地見学



富士山ネットワーク発表会

富士山の環境保全を官民が一体となって推進している「富士山ネットワーク」主催の富士山環境保全活動発表会が6月14日、沼津市の県東部総合庁舎で開かれました。各団体の連携や活動のレベルアップを目的に、富士山エコレジャー活動、富士山みがかあげ作戦、湧水保全、自然の森づくりなど、7つの活動が集まった会員ら約100名の前で発表されました。

富士山憲章推進会議

富士山の環境保全運動を展開する「富士山憲章推進会議」の会合が6月6日、御殿場市の秩父宮記念公園で開かれました。1998年に制定された富士山憲章は、今秋5周年を迎えます。会議では、富士山の環境保全のための取り組みが報告された後、富士山憲章の積極的なPRのほか、制定5周年を記念したシンポジウムを静岡、山梨の両県でそれぞれ開催することが決定されました。

富士山ハザードマップ検討委員会が開催されました

「富士山ハザードマップ検討委員会」の第9回活用部会が6月16日に明治記念館(東京)にて行われました。事務局から、一般配布用の火山防災マップの試作品や観光客用マップの考え方及び富士山火山防災対策の主要な課題と対策についての説明が行われ、これに基づき質疑が行われました。この概要は内閣府ホームページ防災・災害対策のページに公表されています。

夏休み 大沢扇状地 自然観察会 参加募集

- 実施日：平成15年8月6日(水)
- 対 象：小学生～一般(小学生は父兄同伴)
- 参加費：500円(交通費及び保険料)
- 定 員：約150名
- 申込方法：往復ハガキかEメールにて住所・電話番号・希望日(複数可)・氏名・年齢(ご家族・グループの場合は全員と代表者)を記入して、富士砂防事務所へお送りください。参加案内を返送します。Eメール info@fu.jisabo.go.jp

土砂災害防止月間 行事開催報告 ●以下の日程と内容で行いました。

実施日	開催場所	参加者等	行事内容
6月10日	富士宮市上井出地先	40人	◎幼稚園児による砂防施設付近への花植え
6月12日	富士宮市阿幸地区公会堂	40人	◎講演会(大沢崩れとその対策・土砂災害とは)
6月11日～17日	富士川町:道の駅「富士川楽座」	2,460人	◎砂防事業等に関するパネルの展示 ◎土石流VTRなど放映
6月22日	静岡市(青葉シンボルロード)	多数	◎砂防事業等に関するパネルの展示 ◎土石流VTRなど放映 ◎土石流模型実験の実演

第8回 富士山への手紙・絵コンクール作品募集

■手紙部門

応募資格：小学生以上の方ならどなたでも応募できます。
作品規格：一人1点(未発表のもの)、ハガキ400字以内

■絵部門

応募資格：どなたでも応募できます。
作品規格：一人1点、未発表のオリジナル作品に限ります。画材や表現方法に制限はありませんが、クレヨンなど他の作品を汚すおそれのある画材はご遠慮ください。用紙は四つ切を使用してください。

募集要項

- 審査委員：村松友視(作家)
- 応募期間：平成15年7月1日(火)～9月16日(火)(当日必着)
- 応募先：〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地 富士宮市教育委員会 学校教育課 富士山への手紙・絵コンクール事務局
- 応募方法：詳しくは6月中旬に主催者が配布する「応募要項」をご覧ください。
- 主 催：富士宮市・富士宮市教育委員会・富士砂防事務所

●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せください。

富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験をされた方の情報提供をお願いいたします。

<連絡先>

富士砂防事務所

担当/建設専門官・鈴木、または調査課長・小泉まで

TEL.0544-27-5387

<お問い合わせ先>

■国土交通省富士砂防事務所
〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100
TEL.0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

■富士宮砂防出張所
〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1
TEL.0544-54-0236

